

○いたくろ 議会だより

〔今月の主な内容〕

- ◆ 9月定例会可決議案…………… P 2
- ◆ 一般質問…………… P 3
- ◆ 平成17年度決算認定・質疑…………… P 10
- ◆ 議長室エッセイ…………… P 11
- ◆ 町政に一言…………… P 12

2006 11/1 第99号



～いつもパワフル全開～

10月8日、町民体育祭が開催されました。快晴に恵まれたものの、朝から強風が吹き抜けるなか、グラウンドいっぱいに元気に踊る「よさこい板倉愛好会」の女性群。黒とピンク色のコスチュームがとてもお似合いです。

9月定例議会



平成18年第3回定例議会が9月12日から21日まで10日間の会期で開かれました。

今回の定例会では教育委員の任命、公平委員の選任などの人事案件や、国民健康保険条例などの一部改正、平成18年度各会計補正予算、また平成17年度一般会計歳入歳出決算認定及び特別会計歳入歳出決算認定など18議案全てについて可決しました。

人事案件・補正予算・決算認定など18議案を可決

1億3,679万7千円(一般会計)を追加補正
 平成17年度決算認定で多くの議員から質疑
 一般質問には7名が登壇

人事案件

■板倉町教育委員会委員の任命

9月30日で任期満了となる今村好市氏(大字大高嶋)を引き続き教育委員として任命することに同意しました。

■板倉町公平委員会委員の選任

委員1名の辞任に伴い欠員が生じたことにより、新たに石川貞夫氏(大字板倉)を選任することに同意しました。



石川貞夫氏

条例の一部改正

■板倉町国民健康保険条例の



9/12議会初日

人事案件2件と出産育児一時金改定など条例の一部改正を可決しました

一部改正

■板倉町福祉医療費の支給に関する条例の一部改正

国の医療制度改革による健康保険法等の一部が改正され、出産育児一時金給付額が30万円から35万円に改定されること、また福祉医療費の特定療養費が廃止され保険外併用療養費に再編されることなど、条例の一部を改正するものです。

■板倉町小口資金融資促進条例の一部改正

■板倉町中小企業設備近代化資金融資促進条例の一部改正

2件ともに、群馬県信用保証協会における連帯保証人の徵求基準の見直しにより、条例の一部を改正するものです。見直しの内容は「原則として法人代表者以外の連帯保証人を徵求しない」とするものです。

その他

■群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議

消防組織法の改正による文言整理及び榛名町が高崎市に編入合併するため本組合規約の変更を協議するものです。

補正予算

平成18年度一般会計及び特別会計補正予算を可決しました。それぞれの追加補正額は次の通りです。

	追加補正額	予算総額
一般会計	15,361千円	4,983,996千円
老人保健特別会計	1,995千円	1,263,895千円
国民健康保険特別会計	93,719千円	1,577,007千円
介護保険特別会計	23,722千円	811,552千円
水道事業会計	2,000千円	122,803千円
合計	136,797千円	8,759,253千円

一般質問

議会 2 日目
9 月 13 日 (木)

① 青木秀夫 議員

すべての教科の基礎となる

「漢字の読み書き教育」の強化推進を



教育の二極化は諸悪の根

問・大都市では、私立と公立

の二極化が定着している。さらに公立小学校でも学校選択制が広がっている。教育の二極化は格差社会の再生産、諸悪の根源になるのではないかと心配である。二極化問題についての考えは。

答・教育長 教育の二極化は

特に大都市において進んでいる。合併に伴い、大都市と小さな町村との格差は、公立学校教育にも影響している。二極化が進めば進むほど、いろいろな社会問題が発生して

くる。それをどう食い止めるかということは、公立本来の義務教育を確実に進めていくことであると思っている。

教育委員に活動の機会を

問・戦後、教育の民主化、教

育の地方分権を目的に地方教育委員会が設置された。その教育委員会には絶大な権限が付与されている。しかも、非常勤で教育の専門家ではない教育委員によって構成されている。専門家ではない教育委員と校長、教員との意見交換、交流を深めることが板倉町の教育改革、教育の向上につながるのではないかと思うので、そういう機会を増やすべきではないか。

答・教育長 末端の教育現場

がきちんとわからないと、教育をどう進めていくかという考えも出てこないの、学校長と教育委員、場合によっては町長との懇談会等を実施している。また年一回、各学校を訪問し、学校長から学校経営方針等の説明を受け、学校現場の様子なども見ている。学校は教育委員に限らず一般市民、保護者にも四六時中公開している。いろんな機会をとらえ学校現場を視察している教育委員もいるなか、その都度、提案を受けている。

教育長の最大の役目は 教員への指導力

問・常勤の教育長は非常勤の

員会との関係の中で浸透できればと考えている。



談合阻止で、保育園建設を

問・公募による保育園運営者

と、設計業者による提案価格が町の建設目標額を上回った場合の対処方法。その後、指名競争入札方式を採用するのとこのことであるが、談合阻止、落札率引き下げに工夫を凝らしている自治体の入札方法を参考にすべきではないか。

答・助役 今回の保育園建設

は補助対象外事業であるので、保育に必要なものだけを設計に取り入れていく考えである。

答・町長 最近心配されてい

る事例がこちらこちらにある。板倉町の場合、談合は無いと確信しているが、なお一層気を引き締めて努力していきたい。

一般質問

議会 2日目
9月13日(休)

② 秋山豊子 議員

AED（自動体外式除細動器）の講習は「命の大切さ」を学ぶチャンス！



命の大切さを学ぶ
中高生のAED講習実施を

問・命の大切さを学ぶとともに、適切な行動、また学校生活の安全・安心の上でも、中高生を対象としたAED講習を実施すべ



▲人命救助に役立つAED機器の講習を受ける役員職員

答・町長 命の尊さを理解してもらうためには救急救命講習を位置づけて、その中でAED講習も扱う方法が良いと考える。したがって、中高生にはそうした講習等を通じてさまざまな体験習得することが大事であると考えている。現在、南小学校にこのAED機器が1台ある。徐々に他にも備えていきたい。

答・町長 命の尊さを理解してもらうためには救急救命講習を位置づけて、その中でAED講習も扱う方法が良いと考える。したがって、中高生にはそうした講習等を通じてさまざまな体験習得することが大事であると考えている。現在、南小学校にこのAED機器が1台ある。徐々に他にも備えていきたい。

妊婦健診費補助の進捗状況は

答・教育長 今、命の問題については非常に大事な教育の一環であり、校長会等を通して実現していきたい。来年度予算には、ぜひ小中学校および各公民館にAED機器が配置できればと思っている。

問・子育て支援のひとつである出産前の負担軽減につながる妊婦健診費補助について、平成17年3月定例会で質問したが、その後の進捗状況を聞きたい。

答・町長 妊娠中には通常十数回の健診を受けると聞く。健診は公的保険がきかないということもあり、町では2回分補助している。ほとんどの自治

体が板倉町と同じ2回であるが、近辺では館林市、大泉町、邑楽町は3回分補助している。国の「新しい少子化対策」が示され健診費無料回数が増加が打ち出されたが具体的にはつきりしていない。今後、国の動向を見きわめながら対処したい。

問・2回の補助を1回増やし3回にすることは最低限のこと。できれば妊娠から出産までの14回全部を補助してほしい。しかし、今の町財政を考えると3回の町補助があれば、あとは家族でなんとかするとの意味合いを含め、1回増やす考えを再度聞きたい。

答・町長 2回を3回補助にすると50万円位の差額になるということで、前向きに検討していきたい。

問・限られた財源の中、大変なことかわかるが、若い人たちが産み育てやすい環境をつくっていく施策が大事なのではないか。

答・町長 専門家も含め、どういう支援が可能なのか、早急に検討しなくてはならないと考え、具体

的なものを出すように努力していきたい。

求めやすい価格の町営公園墓地の考えは

問・今、ニュータウンだけではなく、町内全体に、終の棲家となる墓を建てたいと思っても高額なものになるため求めにくい。宗派を問わず多くの人が求めやすい価格の町営公園墓地の考えは。

答・町長 今のところ、ニュータウンや他の町民たちから墓地を何とかしてほしいという要請は余り聞いていない。アンケート等含め実態の把握に努めていきたい。

答・助役 公園的要素を持つてということになると都市公園事業としてやることになる。しかし町単独でやるには、墓地そのものの以外の緑地スペースを大きく取るため採算が合わない。したがって、今の町の状況では非常に難しい。やるとすれば広域的な視点からスクラムを組んで取り組むことが必要であると思う。

一般質問

議会 2日目
9月13日(火)

③ 鈴木敏夫 議員

平成19年4月実施予定の

板倉町行政組織改革の進捗は



総務省による集中改革プラン
板倉町の削減目標値は

問・職員数は定数条例や人員

適正化計画案に沿って決められている。総務省が自治体から集中改革プランを取り寄せ集計した結果、削減枠が計画目標値5・7%をクリアし、5・9%に達したと公表している。全国自治体の84%から計画案の提出があったようだが、板倉町は提出したのか。提出したその内容は。

答・総務課長 町も集中改革プランを提出している。公務員5%削減目標値が

国から提起されてきた。当町でも、平成17年から21年にかけて取り組むことになっている。人員削減だけでなく、自主財源の確保、民間委託事業などを含めた計画になっている。削減目標達成時の職員数160人の数値目標は、平成18年当初時点で達成しているが、さらに削減を進めていく考えである。

問・新聞報道によると、夕張市が財政破綻になったと聞く。またこの現象が全国に及ぶ恐れもあるという。特に第三セクターや公社が赤字の温床という指摘があった。反面公社、第三セクターを含めた財務諸表や貸借対照表を作っている自治体も少数だがあるという。総務省も自治体に対して、財務

諸表の公表を指導していく方針という。板倉町でも公開していく考えはあるのか。また町では、行政改革方針が既に決まり、8月には説明会があると聞いていたのだが。

答・企画財政課長 理想的な予算規模が47億円ということ、財政運営を目指してきたが、17年度には48億8千万円余の財政支出を余儀なくされた。基金の取りくずし、借金によって支出を補ったといえる。健全な財政運営は公債比率が10%以内が原則であり、町では15・4%の公債比率となっている。ニュータウン投資起債、資源化センター関連起債が財政圧迫の因となっている。

答・総務課長 行政組織改革は、骨格的には固まっ

いるが、派遣職員、出先との調整、評価制度の導入などをつめなければならず、若干の猶予がほしい。組織改革はトップダウンではなく、全職員が参加する形を追究したい。

答・町長 現在の地方財政は本当に困難な状況にある。以前は、23億円だった交付税が今年度は15億円を割る現実に直面している。国の動向を考えると、さらなる財政圧縮が予見できる。この厳しさを一人一人の職員が認識することが重要となる。民間ではさまざまな競争が展開されている折、公務員といえど例外ではなく、周知徹底した意識高揚と実践が不可避である。

に約5・5ヘクタールの保有地が一箇所ある。平成6年11月に5億7,047万円取得し、用途は雑種地である。現在の評価額は6億8,887万円になる。

答・企画財政課長 ニュータウン建設事業当初の開発計画で、平成12年には人口2万5千人と見込み、公共施設集約センター用地として位置づけしていたが、社会経済パブル崩壊で景気が低迷し、ニュータウン事業の縮小と相まって、当初計画は困難になった。起債の利息は一般会計からの支出で補てん処理している。土地の活用方策は種々制約もあり、もう一度議会を始め再検討をしなければならない。

土地開発公社が保有している 公有用地は

問・財政が厳しい中、板倉町

土地開発公社で保有している公有地の現況や活用方針の詳細を具体的に聞きたい。

答・都市開発課長 資源化センター東側の大新田地区



▲利活用の再検討を要する公有用地

一般質問

議会 2 日目
9月13日(水)

④ 石山徳司 議員

排水ポンプ能力と集水面積 農地法の規制緩和で固定資産税の確保を



谷田川第一排水機場関連樋管
2箇所はどうなっているか

問・人間性を育む要素は生まれた家庭や地域への愛着心以外の何ものでもない。これからの子どもたちへの郷土愛が引継がれていくことを念じ問う。前回、谷田川第一機場樋管が二つあり、一方がY P 11・9 M、片方がY P 14・5 Mと聞いた。この常識はずれの差違に対する考えを率直に述べてほしい。

答・町長 谷田川排水機場樋管の関係はY P 11・9 M

のほうが自然流下樋管の敷高ということで、改修計画そのまま利用すると聞く。他方のY P 14・5 Mは、河川とすると高いような気がする。他地域にある県指定河川も谷田川へではなく、利根川に排水することになっていくことから想像できる。今後の改修では少しでも下げていく方向で話し合っていきたい。

問・利根川上流河川事務所発行の各河川の集水面積と排水機能力表では、谷田川(98・7 km²・88・1 t)板倉川(46・3 km²・40・5 t) 休泊川(24・4 km²・20 t) このとおりなら板倉町は治水行政が東毛市町と互角となる。しかし板倉川の集水域は53 km²と聞いているがその内訳は。

答・町長 板倉川本流域28・1 km²、仲伊谷田承水溝域15・7 km²、大箇野川流域7・3 km²、内郷排水掘域2・1 km²、合計53・2 km²となる。板倉川と大箇野川は同一河川とみる。

答・建設課長 集水面積を関係市町別に表すと、板倉町34・6 km²、館林市16・2 km²、藤岡町2・4 km²となっている。板倉町は谷田川流域分が抜いてあると聞く。

問・板倉川と大箇野川が同一河川と規定するなら、板倉町41・8 km²、館林市16・2 km²、藤岡町2・4 km²、合計60・4 km²の集水面積となるはず。排水能力40・5 tの現機場だけでは他市町の治水行政実情と比較したとき、はるかに及ばないと判断できる。答

弁の「谷田川流域は抜いてある」ということは大箇野川が谷田川へ排出することが理に叶う。改修予定の谷田川第一機場を10 t上乗せしておくべきではないか。

答・町長 話を聞くと矛盾がみえる。板倉町の安全はどんなことで守られているか、どんな仕組みになっているのか、精査する必要がある。第一、第二機場が完成し、今後谷田川第一機場も改築が始まる。板倉町の治水関係をおのころ、きちんと整理すべきと考える。

自主財源(住民税・固定資産税)の現状は

問・板倉町の自主財源は、固定資産税と住民税だけである。固定資産税は変動がなく、大切な税源となっている。郡内各町の面積は板倉町41・8 km²、邑楽町31・1 km²、千代田町21・7 km²、明和町19・6 km²、大泉町17・9 km²となっている。各町の固定資産税はどのくらいか。また板倉町は個人住民税



▲貴重な財源となる固定資産税

が税源移譲されると、税収面でさらに引き離されるのではないかと。

答・町長 郡内各町の固定資産税額は、板倉町9億4,100万円、邑楽町19億8,600万円、千代田町12億6,200万円、明和町10億8,600万円、大泉町37億7,100万円である。個人住民税が税源移譲されても大きな違いはないが、板倉町は農家人口が多いので若干の開きはあると考えられる。板倉町の税収を上げるには、企業の導入が不可欠となる。農地法の規制が強くニュータウン、流通団地造成に大変な苦労をした。農地転用などの権限が移譲されることを願っている。

一般質問

議会 2日目
9月13日(水)

⑤ 宇治川利夫 議員

館林厚生病院の地域医療

農産物直売所の季楽里が目指すものは



新築移転が中止になった根拠 増改築に至った背景は

問・館林厚生病院が開設されて38年が経過している。この間、施設の老朽化も進み、ここ2年で入院・通院患者合わせ約10万人の減、事業収入も赤字となっている。17年4月に病院の新築移転が浮上したが、今年になり増改築へと変更になった。その背景を聞きたい。

答・町長 新築移転に関しては中止ではなく凍結というところである。新病院の見直し、再検討の理由だ

が、移転先の土地取得の不同意が1件、また病院の経営状況が良くない等々今後の見通しが非常に難しかったことである。現時点においては、現在不足している機能等の増改築により体力をつけてから先を考えることになった。

問・土地取得の不同意の件は価格の問題なのか。

答・町長 価格までは踏み込めなかったようである。

問・増改築する場合の町負担額はどのくらいか。

答・町民生活課長 18年度からの三カ年事業で、18年度212万7千円、19年度696万9千円、20年度1,045万3千円である。

問・現在ある累積赤字分19億2,491万円の改善策

は何か。

答・町長 回復期リハビリテーション病棟の増築等による増収を図り赤字を解消していきたい。

問・今後の地域の緊急指定病院としての役割をどのように考えるか。

答・町長 地域における機能分担を明確にし、地域医療機関との連携を図りながら、地域医療支援病院を目指して努力をしていきたい。

問・リハビリ病棟を増やすことにより医師の不足は生じないか。

答・町長 院内で確保できると考えている。

問・一般の開業医との連携を図る地域医療についてどう考えるか。

答・町長 館林厚生病院もいろいろと努力をしてい

る。開業医等との連携は欠かすことのできない大事なものとして進めていきたい。

季楽里の今後の運営策は

問・季楽里の17年度年間利用者数と経営状況について聞きたい。

答・町長 年間利用者は8万3千人、収入は試食コーナーの手数料111万6千円を含め1億467万5千円である。

問・出荷者の人数はどのくらいか。

答・町長 生産者協議会の18



▲野菜の品数も豊富（季楽里の店内）

年3月末会員数は、町内152名、町外38名の合計190名である。

問・市場等外部からの仕入れはどれくらいあるのか。

答・産業振興課長 館林の生産市場、JA群馬板倉等から1年間で2,249万4千円である。

問・冬場に採れない野菜等を組合員にハウスで生産してもらおうような指導を季楽里ではしているのか。

答・産業振興課長 出来るだけ端境期がないように指導はしている。いずれにしても地元の農産物が殆どだというものにしていきたい。

問・指定管理者制度の導入は考えているか。

答・町長 考えていない。独立の直売所として頑張りたい。

問・グリーンツーリズムについてどのような考えを持っているか。

答・町長 町にはいろんな資源、文化的なもの、すばらしい景観等がたくさんある。また豊で広大な農地もある。これらをうまくネットワークさせることが大事だと考える。

一般質問

議会 3日目
9月14日(休)

⑥野中嘉之 議員

少子化による少人数数学級問題 邑楽土地改良区、町への移管問題を問う



「たくましい板倉っ子」の育成
一学級何人が適当か

問・少子化による少人数数学級といったものが教育に与える影響は大きい。心豊かでたくましい子どもを育てるためには、一学級何人ぐらいが適当と考えるか。

答・教育長 学習面から考えると少人数であれば教員も非常に目が届くということもあるが、たくましい子どもを育てるにはある程度の人数がいて切磋琢磨し、良い意味での競争心が必要である。総合



▲少子化現象は学級数の減少にも影響してくる

的に判断すると、一学級25人から30人ぐらいが適正規模であると思う。また、単学級ではなく、一学年二学級は必要であると考ええる。

問・最近人間力の向上と言わ

れるが、生きる力と人間力は違うのか。

答・教育長 基本的には、人間力と生きる力とは同じだという認識をしており大差はないのかなと思う。

問・少子化傾向のなかで、本町の今後の望ましい教育のあり方について、学校選択制や統合問題などを含め、話し合いの場を設けていく考えは。

答・教育長 学校間格差は当然出てくる。教育環境の整備という部分では、東小学校については教室が不足する可能性が高く、かたや北・南小学校では児童数の減少により教室が余ってしまうというばらつきもあるので全体をどう対応していくか検討に入る段階にきている。

答・町長 小学校区単位というのとは重要な地域社会である。願わくば統合ではなく、それぞれの小学校が立派にやっていける状態が望ましいと考える

が、極端に児童数が減ってきた場合、子供たちの将来を考えると検討していく時期にきている気がする。

邑楽土地改良区
町への業務移管の進捗状況は

問・一般質問の町長答弁でも、

邑楽土地改良区の業務移管に関し、19年度からの実施に向けたプロジェクトチームを早期に立ち上げたことと、現在までどのようなメンバーでどのような協議がされたのか。

答・産業振興課長 3月議会ですべての協議が完了し、4月、5月に町の関係課、邑楽土地改良区職員、県職員を集めプロジェクトの立ち上げを検討した。名称を管理移管推進協議会とし、構成メンバーには町長筆頭に議長、産業建設常任委員長、邑土理

事長、代表理事、農委会長、農協長、農業経営士、区長会長、商工会長、県職員、非農家の公募委員と決定し、現在に至っている。今後は早急に会議を開催し、遅れを取り戻したい。

問・今の段階で、移管に関する大きな課題はどのようなところがあるのか。

答・産業振興課長 課題は数多くある。一番問題なのは邑楽土地改良区の既得権で慣行水利権、4ルートからの取水トータル6・4トンある。それらの処遇等も一番大事なのである。また、改良区は改良区の中で改革を進め、電気料、賦課金等下げようという形にできればと思う。

問・当初目標の平成19年4月移管スケジュールに遅れが生じないか。

答・産業振興課長 3ヶ月程遅れている状況下、精力的な活動の実施で遅れを取り戻し、19年度当初は難しいが出来るだけ早い時期にスムーズな移管ができるよう努力はしていきたい。

一般質問

議会 3日目
9月14日(木)

⑦市川初江 議員

ますます重要性を増す少子化対策指標と 住民の願い八間樋橋架け替え実現を問う



次世代育成支援行動計画の 具体的な指標は

問・次世代育成支援行動計画において、平成17年度調査検討をした施策の取り組み状況について聞きたい。

答・町長 平成17年3月に計画を策定し、町では計画を策定するに当たり子育て世代へのアンケート調査を行ったが、その中で要望の多い事項を中心に行動計画を作成した。大きく分類すると、施設整備関係、児童虐待防止関係、子育て情報関係の3

点になる。1点目の施設整備関係では、保育内容の向上と保育コストの削減を目標とした無認可保育園の統廃合民営化計画である。2点目児童虐待防止関係であるが、平成18年2月「板倉町要保護児童対策地域協議会」を組織し、関係機関の連携を図り早期に対策を講じる体制づくりを行った。3点目の子育て情報関係は、町の広報紙やホームページの掲載を行い情報の提供をしている。

地域住民の利便性を考えた 八間樋橋の架け替えを早急に

問・八間樋橋は40年以上の月日が経過し、橋幅も狭くしかも向こう側とこちら側の見通しが大変悪い。



▲幅員の狭さが懸念される八間樋橋

答・町長 橋の両側から車が入ると一方の車がバックしなければならず非常に危険な橋である。地域住民の利便性を考えると橋の架け替え整備が急務でないのか。

色々と相談をしてきたが実際には思うようにいかないのが現実である。354号線延伸計画の見通しを考え、遅れるようであれば八間樋橋整備を考えなくてはならないという思いもあるので、もう少し時間を頂きたい。

岩田流通団地 その後の進捗状況は

問・岩田流通団地の一番早いエンドユーザーの操業が早ければ10月、あとは年明けになるというが、進捗状況はどうか。

答・企画財政課長 早く10月と前回の議会で答弁したが、9月5日に雇用関係も含めて㈱オールユニールと話し合いをし、その中で早い遅いではなく、来年2月1日の操業開始という事で統一したいとの話があった。

問・地元雇用に関しては町と調整が行われたというが、この件の進捗状況はどうか。

答・企画財政課長 雇用関係では、協力をされた地権者の家族で、雇用の希望

があるか地権者に町から投げかけた。そして8月末日に地権者関係の希望を取りまとめて、9月5日に㈱オールユニールへ渡した。一般の雇用関係は町広報紙に掲載を考えている。

問・雇用約500人という数字はどういう根拠から出たのか。

答・企画財政課長 企業側からパートを含め500名ぐらいの雇用があるという話である。町側からの根拠は特にない。

問・税収1億円から2億円というが、土地、建物、その他具体的に示せる範囲での答を聞きたい。

答・税務課長 課税の見直しですが、分譲計画面積を12万平米として、また家屋を1平米当たり4万円で計算すると償却資産が2,720万円、法人が5社入るとして1,500万円、プラス法人税割がある。土地として1,450万円、家屋が容積率200%として1億3,664万円、合計2億円程度が見込まれる予定である。

【1. 一般会計】	
歳入総額	56億2,227万7,975円
歳出総額	52億4,108万9,864円
差引残額	3億8,118万8,111円
【2. 老人保健特別会計】	
歳入総額	13億2,115万8,843円
歳出総額	12億6,450万7,391円
差引残額	5,665万1,452円
【3. 国民健康保険特別会計】	
歳入総額	15億6,100万0,409円
歳出総額	14億9,351万3,131円
差引残額	6,748万7,278円
【4. 介護保険特別会計】	
歳入総額	7億2,514万8,889円
歳出総額	7億0,142万7,289円
差引残額	2,372万1,600円
【5. 下水道事業特別会計】	
歳入総額	3億2,862万1,974円
歳出総額	3億2,106万4,445円
差引残額	755万7,529円
【6. 水道事業会計】	
収益的収入	3億4,542万5,094円
収益的支出	3億3,058万0,714円
差引残額	1,484万4,380円

板倉町の

使ったお金は

(一般会計)

52億4,108万9,864円

でした

9/21最終日

**平成17年度
決算(一般会計・特別会計)を
認定しました**

監査委員の意見書と共に、町長から提出された平成17年度一般会計及び特別会計決算(地方自治法第233条)について審議し、全員一致で可決・認定しました。

一般会計

主な質疑

Q 川田議員

町の予算は基金を取り崩しながら編成している。財政調整基金も底をつくと思うがその後の対応は。

A 企画財政課長

財政調整基金が17年度末で7億円強ある。各年度の予算剰余金で取り崩さないよう努力しているが、19年度は保育園建設費約3億円の予定もあり今後、起債を起こして取り込まなければならぬ。

Q 塩田議員

新センター用地として確保した土地も既に10年以上が経過している。その管理費75万4千円も無駄ではないのか。

A 企画財政課長

当時ニュータウン人口増も

絡み、公共施設一箇所集中構想で取得した土地であるが、今の町財源や防災面等で見直す議論も今後必要である。

Q 石山(基)議員

防犯施設整備事業の需用費光熱水費が非常に多いようであるがその内容は。

A 総務課長

町全体の防犯灯の電気料である。基数にして1,700基分である。

Q 野中議員

収入未済額いわゆる滞納繰越分も含め約1億3,100万円、不納欠損額967万円となっている。昨年度決算より増加している理由は。

A 税務課長

今まで滞納していた金額がそのまま移行していることと、現年度分が1年経つと滞

納繰越分となる。今回滞納者は579件、1億950万円に対し5班編制で滞納整理に鋭意努力したい。

Q 石山(徳)議員

町では町債を50億円ほど発行しているが、その引き受け金融機関の内容は。

A 企画財政課長

財政融資資金として国から借りるものがほとんどで、本年度末35億円ほどある。構成比は、財政融資資金が62%、簡保資金が14.8%、群馬銀行7%、館林信用金庫4%、JA板倉が6.5%である。

Q 宇治川議員

基金の取り崩しや借金、町債などで推移していくと財政破綻の危機になりかねない。町民に中身を知らせ、住民参加の町づくりをしていくよう

小島昭男氏逝く



惜別

去る8月7日、小島昭男氏が逝去されました(享年58歳)故人は平成11年5月に板倉町議会議員に就任してから7年3ヶ月の間、産業建設常任委員会委員長、総務文教常任委員会委員長などを歴任し、板倉町政に多大な貢献をされました。心よりご冥福をお祈りいたします。

議会構成が変わりました

一部変更

根岸昭雄氏並びに江田音吉氏の議員辞職と小島昭男氏の死去に伴い、議会構成の一部が変更になりました。

- 総務文教常任委員会委員長に石山甚一郎議員
■産業建設常任委員会委員長に黒野一郎議員、同じく副委員長に青木秀夫議員
■議会運営委員会委員に石山甚一郎議員、黒野一郎議員
■邑楽館林医療事務組合議員に鈴木敏夫議員
■館林邑楽農業共済事務組合議員に宇治川利夫議員

以上の方々が新たに選任されました。(いずれも9月21日付)

ホームページで見られます

議会だより

平成17年度(年4回発行)の議会だよりと本年度発行の議会だよりが板倉町のホームページで見ることができます。http://www.town.itakura.gunma.jp/

情緒豊かな日本らしさを

議長 古橋泰治

議長室エッセイ

紅葉が見頃をむかえている。原色に近いほどの真赤に燃える様子が、テレビで紹介されているが、華やかという形容はあてはまらない。木の葉が劣化してゆく過程の現象が、四季をもつ日本独特の美しさで、もののあわれを好む日本人の感性を育てている。

最近「日本」をテーマにした著書が目立っており、特に藤原正彦氏の「国家の品格」が話題になっている。日本人が高度成長の中で、経済優先社会の虜になって、古い良き時代のものの見方からかけ離れてしまったことを憂い、市場原理主義や格差社会、過度なグローバリズムを批判している。

今、日本の社会は疲弊しきっているとって過言ではない。連日、殺人、詐欺、学校内のいじめ等、かつては想像できないような記事が事も無げに載っている。日本中競争社会に煽られ焦りを感じている。ここは開き直ってスローライフを楽しみ、忘れられている情緒豊かな日本らしさをとり戻したいものである。

な思い切った歳出の改革が必要ではないのか。
A 企画財政課長
住民参加により経費の削減、軽減につながる。地域支援隊の募集等、人材を生かしたまちづくりを拡大し、町内一円に活動を広げたい。
Q 根岸議員
ベッド数等により病院が簡単に出来ないことは承知している。透析病院に関しては特別な制限もないようだが、町への病院建設の考えは。
A 町長
可能性を探るべく一生懸命

努力している。特にニュータウン内に医療機関を持つてこようと県と相談しながら努力している。
Q 青木(佳)議員
現在および将来の財政状況を考えると合併問題も視野に入れなくてはならない。首長間で話し合いはしないのか。
A 町長
今のところ全く出ていない。館林邑楽地域全体の発展的なことを考えると、館林邑楽地区が一緒になることが最良だと考える。今の段階では自立、一方では合併も視野に

入れ施策を考えていかざるを得ないのが実態である。
Q 黒野議員
厳しい財政の状況下、利用価値観からすれば渡良瀬自然館を休館するなどの施設維持費見直しが必要なのでは。
A 企画財政課長
現在、観光基本計画を策定中であり、遊水地を含めた観光振興での自然館はインフォメーションという位置づけにある。今後、以上に利活用が図れると思われる。
Q 市川議員
教育の目的は知育のみの偏

重教育から体育、徳育に重きを置いたバランスのとれた人間教育だと思うが。
A 教育長
食育を重点に、学校給食で地域食材を入れた安全な食生活をきちんと作っている。地域が子供をしつかり育てる部分が確立され知育、徳育、体育のバランスはうまくとれていると思う。
Q 青木(秀)議員
実質収支額が3億6千万円の赤字になっているというが、基金などのとりくずしが必要ならば実質マイナスになっ

てしまうのではないか。
A 企画財政課長
予算上、基金の繰入金や町債等5億円強計上してある。その分を除けば、たしかに1億4千万円程度の赤字ではないかということになる。
Q 秋山議員
公民館利用者が使用する部分の電気代やガス代ぐらいは自ら支払ってもよいとの意見もある。その後検討されたか。
A 教育委員会事務局長
公民館は社会教育施設ということで、無料が原則にあることから慎重に対応したい。

暗

い町から明るい町へ

外灯の明かりが犯罪の抑止力へ 大字初谷 小野田富康さん



以前、他県から嫁いで来た妻に言われました。「板倉って暗いよね」最初は町に活気がない、雰囲気がよくないとい

う意味の「暗い」と勘違いしていましたが、聞いてみると町内には外灯が少なく夜は文字通り「暗い」のだそうです。なるほど、夜車を運転すると暗くてハイビームにしないと見づらいカーブがあったり歩行者、自転車に乗った人に直前まで気付かずヒヤツとしたこともありました。もし外灯

が増えたなら前述のようなこともなくなり、交通事故も起きず巻き込まれたりする危険性がかなり低くなると思います。また、防犯の観点から外灯の明かりは犯罪抑止力にもなると思います。町民が安心して暮らせる文字通り「明るい町」にして頂けますようご検討頂ければ幸いです。

リ

サイクルでゴミの減少を

焼却できる物をハッキリ提示へ 大字西岡 長谷見範子さん



地球温暖化・環境問題が大きな社会問題となり国、地方自治体が取り組むようになってからどの位経ったでしょう

か。板倉町もこれからのことに色々と取り組み平成9年に資源化センターが設置され、安心してゴミを出すことが出来るようになりました。しかし、まだ家庭焼却を行っているのを時々見かけます。家庭ゴミから塩ビ類を取り除くことは不可能です。ダイオキシンの発生に欠かせない塩素が

どんなゴミに入っているかは私たちにはわかりません。私たちに出来ることはリサイクル出来る物はリサイクルへ。そして最小限のゴミを出すことです。町もゴミ回収に当たり、家庭で本当に焼却して良い物をはっきりと提示し、住みよい環境づくりに取り組んで頂けたら幸いに思います。

『議会をもっと身近に』

だれでも簡単にできます “議会傍聴”

議会の本会議は公開制になっています。会議当日、受付簿に記入していただくだけで、どなたでも自由に傍聴することができます。今度の定例会は12月6日(水)からの開催を予定しています。

議会傍聴のお問い合わせは役場議会事務局、電話 82-1111 (内線141) 番までお気軽にお電話ください。



編集後記

人間の幸せとはなんでしょうか。体が健康、裕福で暮らしに困らない、自分の思うままの自由な生活ができる。一応誠に最もな事柄です。人間の幸せを作る大切な条件を考えてみると、人と人との心の通い合いの中に、連帯と助け合いの中に生きる思い思われる喜びです。また、人のために何かしてやる奉仕の喜びもあります。平穩無事な安らぎと苦難をのり越えるための緊張とのリズムがあつてこそ人生は味わい深く飽きることはない旅路になる。苦難を克服する喜びがある。目的と進歩のある人生の喜び、そして宇宙の大生命の中に生かされて生きている自分は、宇宙の大生命と一体であるのかも知れない。あるがままに生きることが真の幸せと思うこの頃です。(市川初江 記)